

佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2010

# キャンディード

L.バーンスタイン作曲 指揮:佐渡裕 演出:ロバートカーセン

## Yutaka Sado Interview 佐渡裕インタビュー

今もとても熱い指揮者・佐渡裕が、恩師レナード・バーンスタインの没後20年を記念して贈る今夏の話題作「キャンディード」。師が晩年まで手を入れ続けた本作は、その姿を間近で見てきた佐渡にとっても、ひときわ思い入れの強い作品だ。恩師バーンスタインとの思い出、そして上演にかける熱い思いを聞いた。

### 佐渡さん、一体「キャンディード」ってどんな作品なんですか？

一言で言うならば、奇想天外な冒険活劇！主人公の青年キャンディードが世界中を舞台に、これでもかというほど大変な事態に遭遇しながら、ストーリーが展開します。18世紀の哲学者ヴォルテールの原作で、話は荒唐無稽でおもしろおかしく進みますが、そんな中に、戦争の愚かさや災害の恐怖、集団心理の恐ろしさや、人をだましたりだまされたりなど、今の私たちにも共通する話題がちりばめられていて、非常に深い作品です。

僕の師匠、レナード・バーンスタインが亡くなる前年、ベルリンの壁が崩壊した1989年12月に、ロンドン・バービカンセンターでアシスタントを務めた、僕にとっては本当に思い出深い作品で、とにかく、音楽がおもしろい！ディズニーランドみたいに音楽が楽しく充実しています。序曲は、いきなりジェットコースターのように疾走して進みますし、すばらしいアリアがいくつもあつち、ジャズの要素や、ダンスナンバーなど、あらゆる音楽の楽しさが詰めこまれています。

### 佐渡さんにとって、レナード・バーンスタインってどんな人？

彼は四六時中ジョークを言い続けていましたが、博識で教養豊かであり、ただふざけているのではなくて、本質をえぐる鋭さをも兼ねあわせた人でした。

例えば、ミュージカルの金字塔となった「ウエスト・サイド・ストーリー」は、世界中を飛び回る「キャンディード」とは対照的に、ニューヨーク・ウエスト・サイドと呼ばれる地区のギャング団の抗争という、すごくローカルな題材を

取り上げていますが、その実は、“人は何故対立するのか”、という大変重いテーマが据えられています。民族の対立、差別、権力争い…、その中で若い男女は対立を越えて、ロミオとジュリエットのような純粋な恋を育みます。が、争いのために二人の愛は死に引き裂かれてしまう。互いのグループがトニーの死体を担ぎ、自分たちがようやく愚かなことをしていた事に気がついたとき、音楽は得も言われぬ、祈りと悲しみ、そして永遠性を奏でます。バーンスタインという音楽家の深さを物語るシーンです。

### バーンスタインが「キャンディード」に込めた思いとは？

世界はパラドックスであるからこそ、いろんな国や民族、様々な考え方をを持った人々が、互いの考えを話し合い、向き合って力を合わせる必要があると伝えたかったのではないのでしょうか。悲しいかな、人は過ちを繰り返す。だからこそ、それぞれが世の中のことをしっかりみて生きていくんだ、としめくくる。バーンスタインが音楽へ込めた、人類の永遠のテーマに胸打たれ、最後の「我らの畑を耕そう」という合唱曲は、とてつもない感動をもたらしてくれるのです。深く力強い普遍的なメッセージが込められた作品です。

### オペラ演出の鬼才ロバートカーセンの演出は？

ロバート・カーセンの演出の深さには、圧倒されます。作品が作曲された、50～60年代のアメリカを舞台に、巨大なテレビ画面を通してステージが進行するというアイデアもさることながら、マリリン・モンローのパロディーシーンが登場したり、華やかなりレショウビズ界を彷彿とさせるダンスシーンがあったり…、本番の

お楽しみのために、ここでは多くは語れませんが、めまぐるしく次々と展開する場面を、作品の本質にあるウィットに富んだ雰囲気壊すことなく、見事に表現しきっています。これは、難しいことを抜きにしても、楽しいに違いないので、ぜひ劇場にお越しいただきたいですね。

### 2010年、この年に「キャンディード」を上演できることについて

バーンスタイン没後20年、そして、芸術監督を務める兵庫県立芸術文化センターの開館5周年という節目の年に、この作品を取り上げることは念願でもありましたし、僕自身非常に楽しみにしています。震災のシンボルとしての芸術文化センターの芸術監督という任を引き受けるに当たっては、どうすべきか色々と考えました。オープン前に商店街を歩いたり、小学校で授業を行ったりと地元のことを知るために歩き回りましたが、期待していますという言葉の一方で、震災によるキズも感じました。オープンにあたって、僕自身の役目として誓ったのは、犠牲者の魂への祈りと劇場に来てくれる人に心のビタミンをいっぱい届けるということです。その祈りが、「キャンディード」という作品へつながればと思います。

### 最後にみなさんに…

パリのシャトレ座、ミラノ・スカラ座、ロンドン・ENOとヨーロッパで大喝采を浴びたプロダクションを日本へ持ってこられるのは光栄なことです。オペラ・ファン、ミュージカル・ファンのどちらにも刺激があるような作品だと思いますね。音楽は親しみやすく、ワクワクして美しく壮大。ミュージカル・ファンにしたらオーケストラの音の充実が驚くのではないかと思いますし、オペラ・ファンには、ステージのアグレッシブな展開に刺激を受けるのではないのでしょうか。楽しいながらも、深いテーマが根底に据えられた作品なので見終わった後に何か語れる作品であってほしいし、そうなるようにしたいですね。